



畳縁を通じて、畳空間と  
素材に触れる人の心を彩る。

## 高田織物 株式会社

711-0904 岡山県倉敷市児島唐琴2-2-53  
<https://www.ohmiyaberi.co.jp/> 086-477-7162

在籍する職種 製造 / 商品出荷 / 業務 / 営業 / 企画  
FLAT (ファクトリーショップ)

## “常識にとらわれないものづくり” “皆にとって良いものづくり”を目指して。

高田織物の歴史は明治初期に細幅織物の備前小倉帯地の製造を開始したことに始まります。大正時代から畳(たたみ)縁(べり)の製造を開始し、近年では、他社に先駆け、素材や柄を変えた畳縁の製造や積極的な販路開拓を進めたことで、現在では、1,000種類を超える商品ラインナップ数と40%を占める全国シェア率ともに日本一の織元となっています。

従来、畳縁は畳の両端に使われる織物として、黒や茶の無地や古典的な柄が主流で、畳の資材としてしか扱われていませんでした。しかし、高田織物の先駆的な取り組みにより、素材や柄が1,000種類を超える現在では、畳縁としてはもちろん、その用途を超えて、インテリアやアパレル製品、ハンドメイドの素材として幅広く使用されるようになりました。「畳は、長い間、日本文化や人々の生活に溶け込んできた自然な存在で、その両端にある畳縁も自然な存在。同じように、これから姿を変えても、人々の生活に自然に溶け込む存在であり続けてほしい。」という思いから、2014年に畳縁のファクトリーショップ「FLAT」をオープン。色とりどりの畳縁が壁一面に

並びFLATを拠点に、人々の生活やニーズに寄り添った商品づくりと畳縁自体の魅力向上に積極的に取り組み、国内外に向けて畳縁の新たな価値を提案しています。

また、高田織物では「良いものづくりは、人があってこそ」と働きやすい職場づくりにも積極的に取り組んでいます。「会社づくりは、街づくり、地域貢献へと繋がっていく」という考えから、社員に寄り添った環境が整備されており、約8割を占める女性社員が結婚・出産を経て復帰しやすく活躍できる職場となっています。

異素材のそれぞれの持ち味である「耐久性・適度な厚み・発色・軽さなど」を生かし設計されている畳縁。その畳縁を使ったポーチやミニ畳。伝統や用途に縛られず、ハンドメイドの素材など、自由な発想で使ってください。

